

「飼い葉桶に寝かされたイエス様」

クリスマスおめでとうございます。

イエス様はベツレヘムの馬小屋でお産れになり、布にくるまれて飼い葉桶に寝かされました。飼い葉桶とは牛や羊が餌である干し草を食べる時に使う桶です。私たちにとって馴染みのないものです。

猫や犬は今では家族として暮らしている方が多いと思いますが、聖書が語っている情景は、飼い葉桶が人間の日常にあったということの意味していません。言い換えるならば牛や羊と一緒に暮らしていたのです。私たちにとって「食べる」ことは日常の事ですし、命を保つために生きていくために食べる事は最も大切な基本的な生活です。飼い葉桶はその日常を象徴するものだと私は思います。そして、イエス様は私たちのために十字架の犠牲となられることも飼い葉桶は暗示しています。犠牲となる、思い切った言い方をすると私を食べなさいということです。私たちのそれぞれの生活は、いろいろな時があると思います。嬉しい時、楽しい時もあるでしょう。

しかし、苦しいとき、悲しい時、つらい時、涙の日が私たちの日常にはあります。そんな私たちの日常（飼い葉桶）のただ中にイエス様は来られて、寝かされたと聖書は語ります。そしてそれぞれの日常を抱えたマリア、ヨセフ、羊飼い、博士らが飼い葉桶に寝かされたイエス様のもとに集まったのが世界で最初のクリスマスの出来事でした。（司祭 越山哲也）

